

## （1）大学・学科の設置理念

### ①大学

本学は、昭和40年4月に大阪交通大学として開学以来、交通・産業教育に加えて、人間形成、創造性開発に重点をおく人材を育成し、自己確立の信念に生きる人づくり、即ち「偉大なる平凡人たれ」を建学の精神とする独自の学風を通じて、深い人生観と広い世界観を養うとともに、新しい産業社会の発展と人類の福祉に寄与できる世界的視野に立つ近代的産業人の育成にたゆまざる情熱を傾け、日進月歩の社会発展に対応できる学府として貢献してきた。本学の建学の精神には、名誉や地位の高い人間になる、金持ちになるなどの功利主義的な考えを捨てて、人間社会に貢献することを生きがいとし、喜びを感じられる人材になってほしい、という創立者の思いが込められている。

### ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

#### 【情報デザイン学部 情報システム学科】

情報システムは人と人、人とモノ、人とコトを結ぶ社会基盤となっており、これらを維持・発展させるための人材育成が重要となっている。情報デザイン学部情報システム学科では、「人にやさしいモノ・コトづくり」が人々の共感と相互理解を促進し、社会を安心・安全なものにするという信念のもと、現代社会の基盤となる情報システムのデザインに携わることのできる人材を養成する。

## （2）教員養成の目標・計画

### ①大学

#### 【教員の養成の目標】

##### （養成したい教員像）

本学の建学の精神は、「偉大なる平凡人たれ」という言葉に示されているように、社会人として地道な努力を重ね、平凡にも見える一つひとつの仕事に精一杯の力を傾け、その中で自分が大きく成長していくとともに社会の発展にも貢献していくことができるような人材の育成にある。

そのためには、基礎的な教養と専門的知識を身につけ、自ら考える知力を獲得すると同時に、他方ではまた、つねに現場や他の人々の意見からも学ぶという謙虚な姿勢を持ち合わせていることが、大切な要件となる。そしてまた、その両面を合わせ持つことは、人格の倫理的陶冶そのものである。

本学の教職課程の目標・理念も、本学のこの建学の精神と不可分の関係にある。すなわち、自分がそうした「偉大なる平凡人」となることをめざすだけではなく、さらに、生徒たちを「偉大なる平凡人」へと育成することに力を傾注しようとする教育者の養成である。

本学の教職課程では、「偉大なる平凡人たれ」という全学共通の建学の精神を背景として、とくに次のような諸点を念頭に置いて教育を行う。

1. 生徒に対して深い親愛の情を持ち、努力を惜しまぬ教育的情熱に満ちた教員を養成する。
2. 生徒や他の教員とのコミュニケーションを大切に、つねに開かれた心を持った教員を養成する。
3. 自己陶冶に努め、絶えず自らの専門的知識・技能を高める意欲を抱いた教員を養成する。
4. 知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな教員を養成する。

##### （学修教育目標）

上記の教員養成を実現するため、以下の学修教育目標を掲げる。

- （1）教科に関する専門的知識・技能を身に付けている。
- （2）教育の愛情および教育への情熱や責任感を身に付けている。
- （3）生徒たちが「偉大なる平凡人」として自ら学び続けることを支える学習指導ができる。
- （4）他者と協力して課題を解決するのに必要なコミュニケーションをとることができる。

#### 【教員の養成の目標を達成するための計画】

本学の教職課程においては、4年間を通じて、教科の指導およびその他教育実践上の課題解決に必要な知識・技能をはじめとした実践的指導力を学ぶ。

並行して、教員として求められる教育的愛情や教育への情熱や責任感をもった「豊かな人間性」を涵養する。

##### （教育内容）

1年次および2年次は、特に、教員として求められる役割や義務および資質能力の知識および、教員として最低限修得すべき教育の理念、思想、制度、生徒の心身の理解、指導法の基礎について学ぶ。

3年次は、それまでに修得した知識をもとに、教育課程の意義・編成および、教科および特別活動、総合的な学習の時間などの教育課程の指導法について学ぶ。その上で、4年次の教育実習および教職実践演習を通じて、実践的指導力を高める。

##### （教育方法）

教職を目指す一人ひとりの学生が、まずは「偉大なる平凡人」として、主体的に自ら学び続けることができるように、アクティブラーニング型授業の実践を展開する。そのために、授業においては、積極的に、目標および課題の明確化（計画）、学生相互のコミュニケーションを通じた協同的な学習過程（実践）、個々の学生における振り返り（評価）の機会を取り入れる。

##### （学修成果の評価方法）

教育内容および方法と整合した評価規準をもとに、各授業における到達度（単位修得）を総合的に評価する。加えて、教員として求められる「豊かな人間性」については、教職課程の教員による、教職課程の必修である教育実習の事前、事後指導および教職実践演習での学びの姿勢、さらには履修カルテの記述を通じて評価する。

## ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

### 【情報デザイン学部 情報システム学科】

#### 【教員の養成の目標】

##### （養成したい教員像）

情報デザイン学科は、情報社会において重要とされている数理・データサイエンスを基礎とし、情報メディアを含む情報システムに関連する技術の教育を行い、情報システムに関する専門技術を身に付けさせる。具体的には、数理・データサイエンスの基礎を身に付けた人材を涵養し、数理データサイエンスを基礎におきつつ、「情報システムをつくる専門家」または、「情報システムをつかう専門家」を涵養する。これらを身に付けた教員は、社会基盤となっている情報システムの仕組み・使い方を理解していることで、既存・新規に関わらずそれらを学校教育へと適切に活用できることが期待される。さらに、情報社会で生き抜くための情報リテラシーと倫理観を修得していることで、情報技術活用による良い面と悪い面を生徒に寄り添い指導することが期待できる。

##### （学修教育目標）

上記の教員養成を実現するため、以下の学修教育目標を掲げる。

- （１）教育者として必要な基礎的な素養を身に付けている。
- （２）情報技術の基礎となる数理・データサイエンスの知識・技能を身に付けている。
- （３）情報技術を教育できる、または教育に活用できるリテラシー・専門的知識を身に付けている。

#### 【教員の養成の目標を達成するための計画】

##### （教育内容）

1年次はコンピュータの仕組みや操作、プログラミングとは何かなど、情報技術の基礎知識を修得し、情報社会における問題を認識し情報リテラシーを涵養する。2年次は、実際のプログラミングにより理系の教員に求められる論理的思考を身に付けるとともに、データサイエンスに必要な数理的知識・技能を身に付ける。3年次は、それまでに修得した知識をもとに、情報技術のより専門的な知識を修得することで、最新の情報技術への対応力を身に付ける。その上で、4年次の卒業研究を通じて、問題解決の姿勢を身に付けるとともに、文書作成能力、プレゼンテーション能力、協調性、責任感を高める。

##### （教育方法）

数理・データサイエンスの知識や情報技術を自ら能動的に体験して身に付けるために、演習科目だけでなくコンピュータを使用した講義を行う。受講者には、ただ聴講するのではなく、示された技術・知識を調査、試用・試作することで、より理解を深めるとともに、情報技術活用による知識・技能を探究する機会を与える。

##### （学修成果の評価方法）

教育内容および方法と整合した評価規準をもとに、各授業における到達度（単位修得）を総合的に評価する。加えて、卒業研究に取り組む姿勢を通じて、4年間で得られた論理的思考、コミュニケーション、情報リテラシースキルについて総合的に評価する。

## （３）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

### 【情報デザイン学部 情報システム学科】

#### ・中一種免(数学)

情報技術を学ぶのに最も必要な基礎学力は数学である。特に、現代ではデータサイエンスの技能が重要視されており、これらは数学の基礎理論に基づいている。情報デザイン学部情報システム学科の「数学」教職課程は、数学が情報社会の根幹となるものであり、それを学ぶことの必要性を理解させることができる教員を養成するために設置するもので、情報技術活用能力を持つだけでなく、数学と実社会における生活との関わりを知った上で、数学の楽しさや良さを生徒が実感できるような指導を行うことのできる教員を養成することを目標とする。

#### ・高一種免(数学)

情報技術を学ぶのに最も必要な基礎学力は数学である。特に、現代ではデータサイエンスの技能が重要視されており、これらは数学の基礎理論に基づいている。情報デザイン学部情報システム学科の「数学」教職課程は、数学が情報社会の根幹となるものであり、それを学ぶことの必要性を理解させることができる教員を養成するために設置するもので、情報技術活用能力を持つだけでなく、データサイエンスなど数学の実践的な技術の応用場面を知った上で、数学を積極的に活用しようとする生徒の意欲や態度を涵養することのできる教員を養成することを目標とする。

#### ・高一種免(情報)

情報デザイン学部情報システム学科の「情報」教職課程は、学科本来の専門知識である情報技術を指導できる教員を養成するために設置するものである。特に、日々進歩していく情報技術に追従できるように、情報技術の基礎を理解した上で先進的な情報技術を活用できる能力、情報技術利用時の常識である情報リテラシーを指導できる能力、情報社会で必要とされるコミュニケーション能力を持った教員を養成することを目標とする。